

情報発信の重要性を 伝える役割を担う



NPO法人
佐田岬ツーリズム協会
(伊方町地域おこし協力隊)

大澤 龍太郎

私は、「地域おこし協力隊」として、四国の最西端、佐田岬半島に位置する愛媛県西宇和郡伊方町で活動している。この佐田岬半島、南の宇和海側はなだらかな白砂の連なる海岸、北の瀬戸内側はリアス式海岸を形成し、年間平均気温16℃の温暖な海洋性気候に恵まれ、非常に過ごしやすい土地柄となっている。主な町の産業は、農林水産業といった第一次産業であり、農業は、大半が柑橘栽培であり、漁業はしらす漁が盛んである。続いて、それらを加工する第二次産業である。そして、風車等による電力業（原子力、風力）・建設業、製造業、その他サービス業がある。今後、伊方町では、

観光産業で外資を得るために、観光分野に力を入れ、外からの新たな風を入れるために、地域おこし協力隊の導入や町外より、企業を誘致、起業支援、移住政策等も段階的に行われる予定である。

伊方町の高齢化率は高く、若者の働く場所が限られている事からの都市部への若い世代の流失もあり、人口が減少するのは、避けがたい事実となっている。若い働き手がいなくなり、高齢化が進めば、産業だけではなく、公共サービスにまで影響がでると思われる。最後は、人手不足でサービスの運営自体が難しくなる。

人口減少の影響は、税収減少、産業の衰退、後継者不足、公共サービスの運営難、伝統芸能、地元行事や祭り、地域イベントの衰退など、多岐にわたる。人口減少で町内での消費が下がると、観光産業で地域外からの外資を得ることが重要になってくる。現在、佐田岬灯台を観光の目玉にするために、灯台付近の再開発が進められ、それに付随したイベント、住民活動が積極的に行われている。

つい先月に灯台の駐車場の近くに「灯台ピクニックバスケット



ピクニックバスケット
(灯台ピクニックハウス)

ハウス」という施設が地元住民グループによって作られた。ここでは、地元の食材を加工して販売する直売所や海鮮バーベキュー所、灯台ガイド、そして海上サイクリングも行われている。また、NPO法人佐田岬ツーリズム協会が主催で行っている佐田岬灯台を海上から見ることができ、船上でアワビの試食もできる「アワビと出逢う佐田岬灯台クルージング」といった体験も本年度から取り組んでいる。まだ、取り組み自体は、駆け出しである。しかし、こうした住民主体の活力ある活動が生まれるのは、地域にとって、とても良い刺激だと思う。また、協力隊の活動で、地域の学芸員の方と合同で着地型ツアーの企画（伊方町三崎地区の町歩き・サイクリング）も行っている。

昨今の地域活性化の象徴となっている道の駅は、町内に2つあり、観光交流拠点施設「佐田岬はなはな」も去年オープンした。これら販売所はあるが、そこで販売する「看板商品」がない。その商品開発も今後の課題である。そして、観光



海上サイクリング(灯台ピクニックハウス)



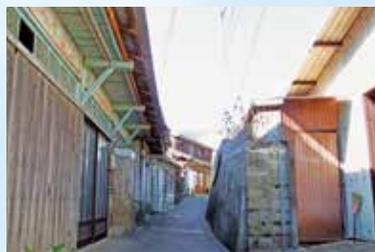
佐田岬灯台クルージング

客が訪れた時に、食事する場所及び宿泊する場所、アクティビティ等を体験できる場所が少ないのも、課題である。このような現状と課題を踏まえ、現在、私たちがまず、はじめに行っている活動は、「情報発信」である。現代は、高度情報化社会であるがゆえ、何か行動を起こすとき、まずはじめに行うのは、「情報の収集」である。現在、何をやるにしても情報は、私たちの周りに常に付きまとうものである。観光産業では、猶更に情報を発信することは、重要である。情報発信より、もっとやるべきことがあるのではないかと言うご意見もあるかもしれないが、その他、観光面のハード事業、外からの資金を得るための政策等は、とても一朝一夕に行えるものは限られている。その点で言ってみれば、情報発信



佐田岬はなはな

「どんな良いモノが存在したとしても、それを受け取る側の受信者がそれを知らないのであれば、それは、この世に存在しないのと同義である」と言った言葉であった。私は、このような事を踏まえて、積極的にあらゆる情報媒体を通じて、情報発信を行っている。協力隊に着任してから、直ぐに、地域の情報を発信するSNS (Facebook、Twitter、YouTube、Instagram) を開設した。それぞれの役割としては、Facebookは、サブホームページ (ホームページより、コアな情報を掲載) 的な役割、Twitterは、よりリアルタイムな情報発信、YouTubeは、文章や写真のみでは、伝わらぬ場合があるので、動画を用いて



旧三崎町の路地裏

は、パソコン1台ないし、スマートフォン1台があり、PC関係のある程度の知識やスキルがあれば、直ぐにできるのである。しかし、こうした本来力を入れるべき情報発信を蔑ろにして、ハード事業やその他政策の方に重きを置いている自治体も少なくないだろう。私が先日、参加した情報発信関係の研修会で強く心に残った言葉があった。

「どんな良いモノが存在したとしても、それを受け取る側の受信者がそれを知らないのと同義である」と言った言葉であった。私は、このような事を踏まえて、積極的にあらゆる情報媒体を通じて、情報発信を行っている。協力隊に着任してから、直ぐに、地域の情報を発信するSNS (Facebook、Twitter、YouTube、Instagram) を開設した。それぞれの役割としては、Facebookは、サブホームページ (ホームページより、コアな情報を掲載) 的な役割、Twitterは、よりリアルタイムな情報発信、YouTubeは、文章や写真のみでは、伝わらぬ場合があるので、動画を用いて

補完する役割。Instagramは、地域の綺麗な風景や色々なイベント、伝統芸能等の写真を掲載して、少しでも地域に興味を持ってもらうための役割がある。その他には、観光ホームページの新着情報の更新頻度を上げて、内容を充実させ、体験メニューのネット予約機能を新規に作成した。今後、観光ホームページ内にショッピング機能 (開店準備中) も新たに作成する予定である。これからのインバウンド観光客の増加も見込み、外国語に対応したページも新規に作りたいたいと思っている。また、イベントを行うときに、出来るだけ、地元の特産品や体験メニューも盛り込んでいく。そして、チラシ・ポスター等にも目立つように掲載している。報道機関向けのプレスリリースに関しては、新規でイベントや企画を行う場合には、関係者宛てに、文書を送付している。現状では、情報発信とハード事業やその他政策・活動との連携がまだまだできていないので、これから、徐々に、この連携の手助けが出来ればと考えている。また、グリーンツーリズムの体験の企画等にも積極的に取り組んでいきたいと思っている。



海上から見た佐田岬灯台